



大山魯牛《山水（牧豚）》1927年 当館蔵



小杉放菴と 大山魯牛

——
老荘会とともに

令和3年

1月1日[金・祝] - 2月14日[日]

主催＝公益財団法人小杉放菴記念日光美術館／日光市／日光市教育委員会

休館日＝毎週月曜日（祝日は開館し、その翌日を休館）

1月4日[月]～6日[水]は年始休館となります。

入館料＝一般730(650)円、大学生510(460)円、高校生以下は無料

開館時間＝午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

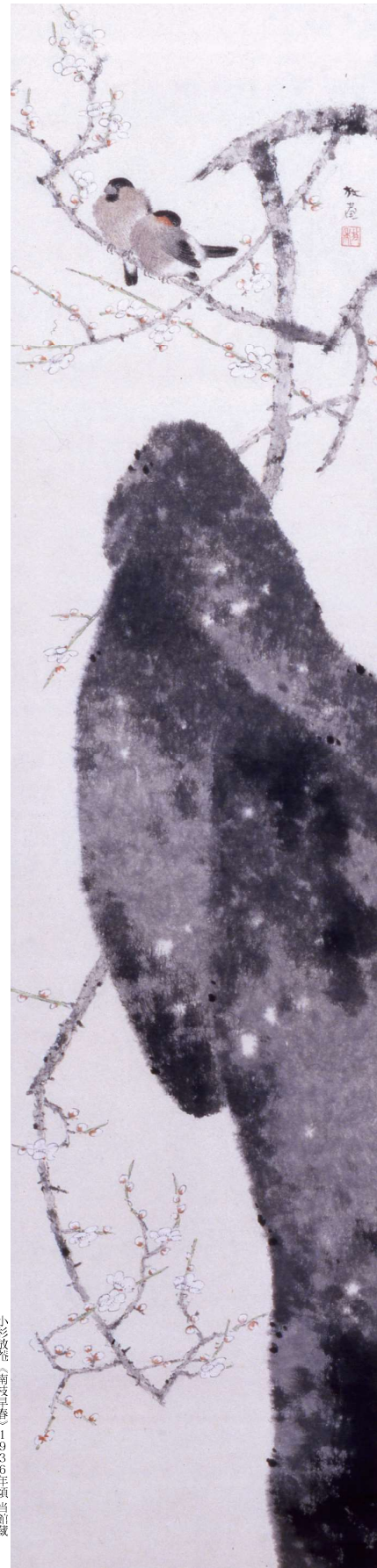
*（ ）内は20名以上の団体割引料金

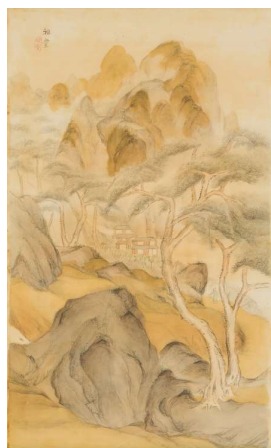
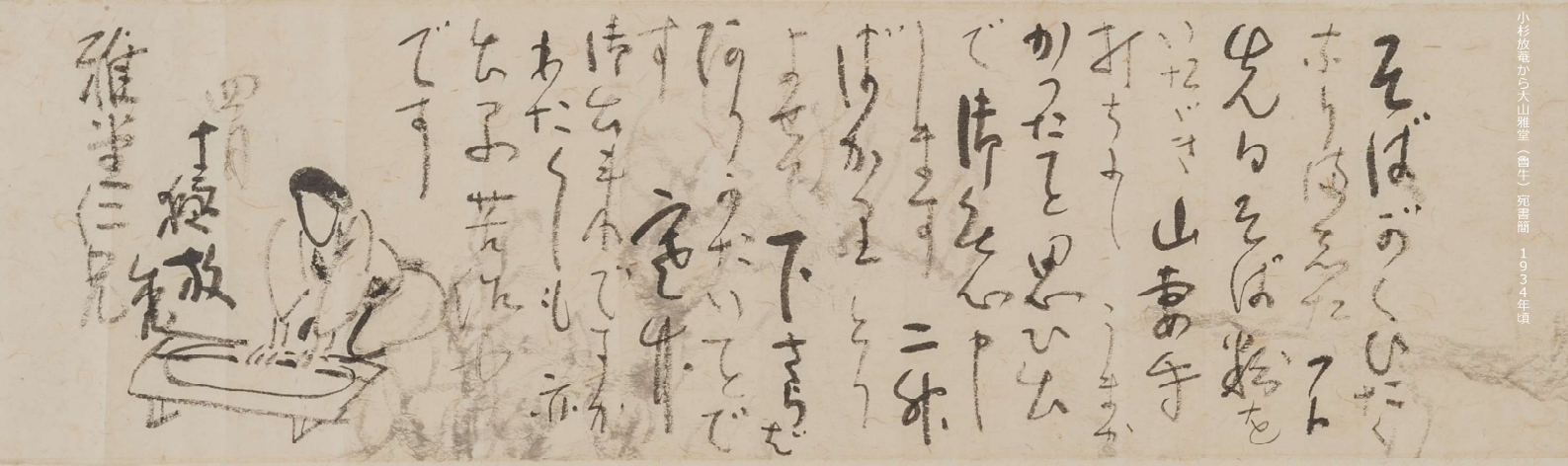
*身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、日光市公共施設使用

料免除カードの交付を受けた方とその付き添いの方1名は無料となります。

*第3日曜日「家庭の日」（1月17日）は、大学生は無料となります。

小杉放菴《南枝早梅》1936年 当館蔵





大山魯牛《山水》
1920年代



大山魯牛《竹林図》
1940年代



大山魯牛《野》1968年



大山魯牛《半谷半仙》1970年
左から公田連太郎、小杉放菴、山中蘭徑を描いている。

※掲載作品はすべて、小杉放菴記念日光美術館所蔵

小杉放菴と 大山魯牛

——老荘会とともに

小杉放菴（1902～1995）は、終生南画と真摯に向き合い、南画を描き続けた画家でした。本名は龍一郎。東京生まれ、生後まもない頃から栃木県足利町（現・足利市）で育ち、1919（大正8）年に上京。小室翠雲が主宰する環堵画塾で南画を学び、はじめ「雅堂」と号して日本南画院や帝国美術院展覧会「帝展」を中心に作品を発表していきます。1935（昭和10）年に「魯牛」へ改号。戦後は、新興美術院に活動の場を移し、1995（平成7）年に93歳で生涯を閉じるまで、筆を折ることはありませんでした。

魯牛はその生涯のあいだに、栃木県ゆかりの日本画家による「華嚴社」や、小杉放菴が主宰し漢学者の公田連太郎を囲んだ勉強会「老荘会」など、何度か放菴と活動を共にしています。

本展は、近年寄贈された大山魯牛作品の公開をかね、「老荘会」を通じて生まれた放菴・魯牛の作品から、二人の親交を紹介してまいります。



小杉未醒（放菴）《牧童》1916年頃



小杉放菴（放菴）《漁村夕陽》1930年代前半



小杉放菴（放菴）画・山中蘭徑 賛
《折脚鑑》1933年



小杉未醒（放菴）《老道士》
1918年頃



■交通案内

電車＝東武日光駅、J R日光駅から「世界遺産めぐりバス」もしくは奥細尾行、清滝行、中禅寺温泉行、湯元温泉行バスで5分、「神橋」停留所より徒歩3分。
車＝日光宇都宮道路・日光インターから約2km。併設の神橋駐車場をご利用ください。美術館受付で駐車券を提示していただくと、1時間まで無料となります。

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO

小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 栃木県日光市山内 2388-3
Tel.0288-50-1200 <http://www.khmoan.jp>

担当学芸員によるギャラリー・トーク

●日時

令和3年 1月10日【日】
2月7日【日】

各午前11時より（1時間程度）

※入館料のみで御参加いただけます。